

# マーケットプレイスにおけるデータ活用

関口 太郎 (せきぐち たろう) ウイングアーク1st株式会社 営業・カスタマーサクセス本部 流通事業推進室 室長

**要約** JEHC が立ち上げた「業務用厨房機器 IoT 構築ワーキンググループ」に弊社ウイングアークはデータ活用のシステムを提供する企業として、マーケットプレイスの具現化のために参画している。ウイングアークは創業以来データ活用のソフトウェアを自社で開発し多くの企業に提供してきたが、HACCP を含む衛生管理においてもデータ活用の重要性が増しており、顧客企業より HACCP 管理への対応ソリューションの問い合わせをいただくことも増えてきている。本稿では、マーケットプレイスの役割から食品関連事業者の課題・ニーズ、マーケットプレイスによる解決方法の提示を行う。また後半では今後のマーケットプレイスの可能性について述べる。

## 1. はじめに

本稿では、プラットフォーム概論を受け、マーケットプレイスの役割、システム構成について述べる。マーケットプレイスは、厨房および施設内のデータを集約・活用することで、業務改善を行うデータ活用の仕組みである。最初に HACCP 対応を含む衛生管理のためのデータ活用について解説し、後半で衛生管理以外のデータを含む厨房や施設全体の効率化を目指したデータ活用について解説する。

## 2. マーケットプレイス概論

### 2.1 マーケットプレイスの役割

2018年6月に成立した改正食品衛生法による HACCP の制度化等によって、食品業界では「食の安全・安心」を守るための取り組みが加速している。更に、2019年4月より働き方改革関連法案の適用がスタートし、食品ロスの削減の推進に関する法律も2019年10月1日に施行された。近年の社会情勢の変化やこれらの法案の成立・施行により、食品関連事業者は事業継続のために、より高効率で高付加価値なサービスを求められ始めている。

厨房機器共通 IoT プラットフォームは、そうした業務の改革・改善を実現するための仕組みの一つであり、その中でもマーケットプレイスの役割は、共通 IoT プラットフォームに蓄積したデータを集約してわ

かりやすく表示することで、厨房や施設の状態を明らかにし、管理可能な状態にすること、それにより業務改善を進め、高効率で高付加価値な業務を実現することにある。管理する指標や項目は、各食品関連事業者の掲げるビジョンに応じて決定されるものであり、マーケットプレイスの利用方法も各食品関連事業者によって決定されるものとなる。次に HACCP 管理を含む衛生管理業務の改善を実施するための仕組みについて解説する。

### 2.2 管理項目について

HACCP 管理を行うシステムを導入する場合、どのような観点で検討をするべきか。最初に HACCP 管理について簡単に解説する。

厚生労働省の HP では、HACCP とは「食品等事業者自らが食中毒菌汚染や異物混入等の危害要因（ハザード）を把握した上で、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で、それらの危害要因を除去又は低減させるために特に重要な工程を管理し、製品の安全性を確保しようとする衛生管理の手法」と定義されている<sup>1)</sup>。

HACCP 管理においては、この「重要な管理が必要な工程」を CCP (Critical Control Point) と呼び、適切な管理基準を設け、日々の確認記録を残し、基準からの逸脱が無いことをモニタリングしていく。CCP は製造・保管する食品によって各食品関連事業者が自らで定めるものであるが、厨房内での温度管理、特に適切な温度での保管や十分な時間の適切な温度での加熱は、重要な管理項目となる (図 1)。

日本食品衛生協会の資料「HACCP の考え方を取り